# 量子アニーリングを用いた クラスタ分析

### 田中宗 (早稲田大学 高等研究所)

機械学習における重要な技術であるクラスタ分析に 対する、量子アニーリングの性能評価を行った。

量子モンテカルロ法を用いた擬似シミュレーションの結果、 シミュレーテッドアニーリングに比べ、**量子アニーリングの** 方が、性能面で優位であることを示唆する結果を得た。

本講演では、量子アニーリングの基礎について述べた後、 我々の研究結果について紹介する。



K. Kurihara, S. Tanaka, and S. Miyashita, *UAI2009* I. Sato, K. Kurihara, S. Tanaka, H. Nakagawa, and S. Miyashita, *UAI2009* I. Sato, S. Tanaka, K. Kurihara, S. Miyashita, and H. Nakagawa, *Neurocomputing*,**121**, 523 (2013)

### 共同研究者

#### 🔮 佐藤 一誠 博士 (東大 情報基盤センター、さきがけ研究員)

#### 🔮 栗原 賢一 博士 (グーグル株式会社)

#### 🔮 宮下 精二 教授 (東大院理 物理学専攻)

#### 🔮 中川 裕志 教授 (東大 情報基盤センター)









# 2つのキーワード

### 量子アニーリング 量子性を用いた 新計算技術

クラスタ分析

分かることは 分けること



### 量子アニーリングの基礎

- >物理学と情報科学
- ▶ 量子アニーリングの性能に関する先行研究
- ▶ 量子アニーリングマシン D-Wave の性質

### 量子アニーリングを用いたクラスタ分析

- クラスタ分析のモデリング
- ▶ 量子アニーリングの導入方法
- ▶ 量子アニーリングの優位性



#### 多数の要素の協同効果を表現する、最も簡単な統計力学模型

 $\sigma_i^z = \pm 1 \quad \clubsuit$ 

$$\mathcal{H} = -\sum_{\langle i,j \rangle} J_{ij} \sigma_i^z \sigma_j^z - \sum_i h_i \sigma_i^z$$
  
スピン間の相互作用 スピンに働く磁場  
 $J_{ij} > 0$ :強磁性的相互作用  
 $J_{ij} < 0$ :反強磁性的相互作用



千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

### 物理学と情報科学組合せ最適化問題

#### 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題

#### 巡回セールスマン問題

✔ 各点を一度だけ通過
 ✔ 全ての点を回る
 ✔ コストを最小にする条件

### 物理学と情報科学組合せ最適化問題

#### 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題

#### 巡回セールスマン問題

✔ 各点を一度だけ通過
 ✔ 全ての点を回る
 ✔ コストを最小にする条件



### 物理学と情報科学組合せ最適化問題

#### 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題

#### 巡回セールスマン問題

✔ 各点を一度だけ通過
 ✔ 全ての点を回る
 ✔ コストを最小にする条件

#### 全ての選択肢を試した場合

点が少ない:簡単 点が多い:困難 選択肢の数:N! (10点:10<sup>6</sup>通り、20点:10<sup>18</sup>通り)



### 物理学と情報科学 組合せ最適化問題 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題 多変数実関数の最小値(最大値)を取る条件を求める問題 $\mathbf{x}^* = \operatorname{argmin}_{\mathbf{x}} f(\mathbf{x})$ $\mathbf{x} = (x_1, \cdots, x_N)$



### **物理学と情報科学 組合せ最適化問題** 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題 多変数実関数の最小値(最大値)を取る条件を求める問題

### $\mathbf{x}^* = \operatorname{argmin}_{\mathbf{x}} f(\mathbf{x})$ $\mathbf{x} = (x_1, \cdots, x_N)$



### 物理学と情報科学 組合せ最適化問題 多数の選択肢から、ベストな解を選ぶ問題

### 多変数実関数の最小値(最大値)を取る条件を求める問題 $\mathbf{x}^* = \operatorname{argmin}_{\mathbf{x}} f(\mathbf{x})$ $\mathbf{x} = (x_1, \cdots, x_N)$

都市数	巡回経路数	計算時間(京を利用として)
5	12	10 <sup>-15</sup> 秒
10	2x10 <sup>5</sup>	2x10 <sup>-11</sup> 秒
15	4x10 <sup>8</sup>	4x10 <sup>-8</sup> 秒
20	6x10 <sup>16</sup>	6秒
25	3x10 <sup>23</sup>	359日
30	4x10 <sup>30</sup>	1401万年



#### 組合せ最適化問題の最適解 = イジングモデルの基底状態



高分子安定構造決定

グラフニ分割問題

集積回路設計

イジングモデル  $\mathcal{H}_{\text{opt.}} = -\sum J_{ij}\sigma_i^z\sigma_j^z - \sum h_i\sigma_i^z$  $\langle i,j 
angle$ スピン(ビット)間 磁場(強制力) 相互作用  $\sigma_i^z = \pm 1$ ✔ 組合せ最適化問題のハミルトニアン ✓ 基底状態を求めることは困難(組合せ爆発)

### 様々な分野に、応用展開可能

田中 宗 (早稲田大学 高等研究所)

8



#### 自然現象から着想を得た計算技術

#### 温める

物質を構成する原子が、自在に動き回る。 **熱による「ゆらぎ」現象** 

#### 冷やす(アニーリング)

物質を構成する原子が、最適な位置に 自然に落ち着く。 安定状態が自然に作られる(自己組織化)。

**シミュレーテッド** アニーリング 通常のコンピュータを用いて実装可能な 汎用アルゴリズム



#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法



千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法



千葉工業大学セミナー 2015/07/25

#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法



千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法

量子ゆらぎ効果



千葉工業大学セミナー 2015/07/25

#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法

量子ゆらぎ効果





# $\mathcal{H}_{\text{opt.}} = -\sum_{\langle i,j \rangle} J_{ij} \sigma_i^z \sigma_j^z - \sum_i h_i \sigma_i^z \qquad \sigma_i^z = \pm 1 \quad \bigstar$

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



$$\mathcal{H}_{\text{opt.}} = -\sum_{\langle i,j \rangle} J_{ij} \sigma_i^z \sigma_j^z - \sum_i h_i \sigma_i^z \qquad \sigma_i^z = \pm 1 \quad \bigstar$$

$$\mathcal{N}$$

$$\mathcal{N}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{T}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{T}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{T}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{T}$$

$$\mathcal{D}$$

$$\mathcal{T}$$



千葉工業大学セミナー 2015/07/25



$$\mathcal{H}_{\text{opt.}} = -\sum_{\langle i,j \rangle} J_{ij} \sigma_i^z \sigma_j^z - \sum_i h_i \sigma_i^z \qquad \sigma_i^z = \pm 1 \quad \bigstar$$

$$\mathcal{I} \quad \mathcal{I} \quad \mathcal{I}$$





#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入

$$\mathcal{H}_{\mathrm{q}} = -\sum_{i} \hat{\sigma}_{i}^{x}$$

$$\hat{\sigma}_i^x = \left(\begin{array}{cc} 0 & 1\\ 1 & 0 \end{array}\right)$$

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入

$$\mathcal{H}_{\mathrm{q}} = -\sum_{i} \hat{\sigma}_{i}^{x}$$

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} \left|\uparrow\right\rangle = \left|\downarrow\right\rangle \qquad \hat{\sigma}_{i}^{x} \left|\downarrow\right\rangle = \left|\uparrow\right\rangle$$

#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入

$$\mathcal{H}_{\mathrm{q}} = -\sum_{i} \hat{\sigma}_{i}^{x}$$

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} |\uparrow\rangle = |\downarrow\rangle \qquad \hat{\sigma}_{i}^{x} |\downarrow\rangle = |\uparrow\rangle$$

 $\hat{\sigma}_{i}^{x}\left|\uparrow\right\rangle = \left(\begin{array}{cc} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{array}\right) \left(\begin{array}{c} 1 \\ 0 \end{array}\right) = \left(\begin{array}{c} 0 \\ 1 \end{array}\right) = \left|\downarrow\right\rangle$ 

#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入



#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入



 $\hat{\sigma}_{i}^{x}$ の固有状態  $|\rightarrow\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}} (|\uparrow\rangle + |\downarrow\rangle), \ |\leftarrow\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}} (|\uparrow\rangle - |\downarrow\rangle)$ **重ねあわせ状態の実現** 

#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入



#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入



 $\mathcal{H}_{q}$ の基底状態:  $| \rightarrow \rightarrow \cdots \rightarrow \rangle$ 

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入

$$\mathcal{H}_{q} = -\sum_{i} \hat{\sigma}_{i}^{x} \qquad \hat{\sigma}_{i}^{x} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$
**スピン反転(ビット反転)**

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} |\uparrow\rangle = |\downarrow\rangle \qquad \hat{\sigma}_{i}^{x} |\downarrow\rangle = |\uparrow\rangle$$
**量子力学的遷移**

$$\hat{\sigma}_{i}^{x} |\uparrow\rangle = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = |\downarrow\rangle$$

 $\mathcal{H}_q$ の基底状態:  $| \rightarrow \rightarrow \cdots \rightarrow \rangle$ 

2スピンの場合:  $|\rightarrow\rightarrow\rangle = \frac{1}{2}(|\uparrow\uparrow\rangle + |\uparrow\downarrow\rangle + |\downarrow\downarrow\rangle)$ 

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

#### 量子揺らぎ効果(非対角項)の導入



 $\mathcal{H}_{q}$ の基底状態:  $| \rightarrow \rightarrow \cdots \rightarrow \rangle$ 

2スピンの場合:  $|\rightarrow\rightarrow\rangle = \frac{1}{2}(|\uparrow\uparrow\rangle + |\uparrow\downarrow\rangle + |\downarrow\downarrow\rangle)$ 

### 重ねあわせ状態の実現

#### 量子アニーリングを実行するためのハミルトニアン

組合せ最適化問題のハミルトニアン (2<sup>N</sup>x2<sup>N</sup>の対角行列)

$$\mathcal{H}_{\text{opt.}} = -\sum_{\langle i,j \rangle} J_{ij} \hat{\sigma}_i^z \hat{\sigma}_j^z - \sum_i h_i \hat{\sigma}_i^z \qquad \qquad \hat{\sigma}_i^z = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$$

量子揺らぎのハミルトニアン (2<sup>N</sup>x2<sup>N</sup>の非対角行列)

$$\mathcal{H}_{q} = -\sum_{i} \hat{\sigma}_{i}^{x} \qquad \qquad \hat{\sigma}_{i}^{x} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$\begin{array}{c} \mathbf{\mathcal{L}} \mathbf{\mathcal{$$



#### 量子アニーリングを表現する時間依存ハミルトニアン

# $\begin{aligned} \mathcal{H}(t) &= A(t)\mathcal{H}_{opt.} + B(t)\mathcal{H}_{q} \\ \uparrow & \uparrow \\ & 1 \\ &$

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

### 物理学と情報科学 量子アニーリング 量子アニーリングを表現する時間依存ハミルトニアン



千葉工業大学セミナー 2015/07/25



千葉工業大学セミナー 2015/07/25

#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法

量子ゆらぎ効果





#### 非常にゆっくりパラメータを変えれば、 確実に基底状態に到達する

S. Geman and D. Geman, IEEE Trans. Pattern Anal. Mach. Intell. Vol. 6, 721 (1984) S. Morita and H. Nishimori, J. Math. Phys. Vol. 49, 125210 (2008)

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



### 非常にゆっくりパラメータを変えれば、 確実に基底状態に到達する



S. Geman and D. Geman, IEEE Trans. Pattern Anal. Mach. Intell. Vol. 6, 721 (1984) S. Morita and H. Nishimori, J. Math. Phys. Vol. 49, 125210 (2008)

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



### 非常にゆっくりパラメータを変えれば、 確実に基底状態に到達する



S. Geman and D. Geman, IEEE Trans. Pattern Anal. Mach. Intell. Vol. 6, 721 (1984) S. Morita and H. Nishimori, J. Math. Phys. Vol. 49, 125210 (2008)

千葉工業大学セミナー 2015/07/25





### 数学的に確実性が保証された計算技術

S. Geman and D. Geman, IEEE Trans. Pattern Anal. Mach. Intell. Vol. 6, 721 (1984) S. Morita and H. Nishimori, J. Math. Phys. Vol. 49, 125210 (2008)

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

### 先行研究の項目に関して、著作権の観点から 発表時に用いたスライドを削除しました。

ご興味のある方は、個別にご連絡ください。



### 量子アニーリングの基礎

- ▶ 物理学と情報科学
- ▶ 量子アニーリングの性能に関する先行研究
- ▶ 量子アニーリングマシン D-Wave の性質

### 量子アニーリングを用いたクラスタ分析

- クラスタ分析のモデリング
- ▶ 量子アニーリングの導入方法
- ▶ 量子アニーリングの優位性

# 2つのキーワード

### 量子アニーリング 量子性を用いた 新計算技術

クラスタ分析

分かることは 分けること

### 2つのキーワード 量子アニーリング

#### イジングモデルの基底状態を効率よく求める方法

量子ゆらぎ効果



田中 宗 (早稲田大学 高等研究所)

22

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### 膨大なデータを、潜在的意味によって分類



### クラスタ分析のモデリング



データ 
$$x_i = A, B, \cdots$$
  $x_1 = A, x_2 = B, x_3 = C, x_4 = D, x_5 = E, x_6 = F$   
クラスタ  $z_i = k$   $z_1 = 1, z_2 = 1, z_3 = 1, z_4 = 2, z_5 = 2, z_6 = 2$ 

クラスタ分析  
$$P(\{z_i\}|\{x_i\}, \alpha)$$
を最大にする $\{z_i\}$ を求める。  
ハイパーパラメータ

### クラスタ分析のモデリング





### クラスタ分析のモデリング



 $\operatorname{argmax}_{\{z_i\}} P(\{z_i\} | \{x_i\}, \alpha) = \operatorname{argmax}_{\{z_i\}} P(\{z_i\}, \{x_i\} | \alpha)$ 





#### データのクラスタ形成プロセスをモデリング



#### 新たに入ってきた客は、どのテーブルに座るか?

確率 
$$rac{N_k}{N+lpha}$$
 で、k番目のテーブルに座る。

確率
$$rac{lpha}{N+lpha}$$
で、誰も座っていないテーブルに座る。

 $N_k$ : k番目のテーブル

N:レストラン内

客総数

に座っている客数



#### データのクラスタ形成プロセスをモデリング



#### 状態更新確率



#### データのクラスタ形成プロセスをモデリング



ハミルトニアンの定義

### クラスタ分析のモデリング イジングモデルによる記述

#### ビット行列(隣接行列)による状態の記述



# **肉東条件付きイジングモデル**

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

### クラスタ分析のモデリング イジングモデルによる記述

#### Seating conditions を満たす状態空間内で更新



客2が seating conditions を満たしながら取れる状態の集合

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### 横磁場を用いて量子アニーリングを実装

$$\mathcal{H} = \mathcal{H}_{c} + \mathcal{H}_{q}$$

$$\mathbf{4SUJ} = \mathcal{H}_{c} + \mathcal{H}_{q}$$

$$\mathcal{H}_{c} = \operatorname{diag} \left[ E(\sigma^{(1)}), \cdots, E(\sigma^{(2^{N})}) \right]$$

$$\mathbf{K}_{c} =$$

### 量子アニーリングの導入方法 Suzuki-Trotter分解



最適化問題を表現する 量子揺らぎを表現する 古典ハミルトニアン ハミルトニアン

 $[\mathcal{H}_{c},\mathcal{H}_{q}]\neq 0$ 

 $e^{-\beta \mathcal{H}} \neq e^{-\beta \mathcal{H}_{\rm c}} e^{-\beta \mathcal{H}_{\rm q}}$ 

指数関数 e<sup>-βH</sup> を計算することが困難

・経路積分表示(Suzuki-Trotter分解)による近似解法

$$\exp\left(-\frac{\beta}{m}\mathcal{H}\right) = \exp\left[-\frac{\beta}{m}\left(\mathcal{H}_{c} + \mathcal{H}_{q}\right)\right]$$
$$\int = \exp\left(-\frac{\beta}{m}\mathcal{H}_{c}\right)\exp\left(-\frac{\beta}{m}\mathcal{H}_{q}\right) + \mathcal{O}\left[\left(\frac{\beta}{m}\right)^{2}\right]$$
$$\text{Trotter}\mathbf{\mathfrak{Y}}(\underline{\mathfrak{W}}\underline{\mathfrak{W}}\underline{\mathfrak{N}}\underline{\mathfrak{P}})$$

### d次元量子系をd+1次元にマップ

### 量子アニーリングの導入方法 アルゴリズム図解

m個のレプリカ間に相互作用が入った擬並列化計算



#### 時間とともに量子揺らぎが弱められる。

K. Kurihara, S. Tanaka, and S. Miyashita, UAI2009 (2009年出版) K. K. Pudenz et al. Phys. Rev. A, 91, 042302 (2015) Quantum Annealing Correction (QAC)も類似概念とみなせる。

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



様々なネットワーク構造を取る膨大なデータ



Citeseer
論文引用ネットワーク
2110論文



Co-author Group 3



**Netscience** 共著者ネットワーク 研究者**1589**人

**Wikivote** 投票ネットワーク **7115**人

千葉工業大学セミナー 2015/07/25

### 熱・量子同時制御型アニーリング

最適解を得る経路 第一段階で温度を下げ、

第二段階で量子効果を下げる

K. Kurihara, S. Tanaka, and S. Miyashita, UAI2009.

量子ゆらぎ効果



T. Kadowaki and H. Nishimori, Phys. Rev. E, **58**, 5355 (1998).

> **効率の悪い経路** 第一段階で量子効果を下げ、

第二段階で温度を下げる

絶対ゼロ度(基底状態)



S. Kirkpatrick, C. D. Gelatt, and M. P. Vecchi, Science, 220, 671 (1983).

(熱ゆらぎ効果)

### 量子アニーリングの優位性 計算条件

#### 熱揺らぎと量子揺らぎを同時に制御

比較実験条件

 $\beta(t) = 0.4m\sqrt{t}$ 

(シミュレーテッドアニーリング)

最もSAがうまくいく条件

逆温度:  $\beta(t) = \beta_0 \log(1+t), \beta_0 \sqrt{t}, \beta_0 t$  ( $\beta_0 = 0.2m, 0.4m, 0.6m$ )

量子揺らぎ項:  $\frac{\beta(t)\Gamma(t)}{m} = \Gamma_0 \frac{\tau}{t}$ 

 $\Gamma_0$ を変えて数値実験を行った。 Trotter数(擬並列数)m = 16は固定。

状態更新確率(量子)  

$$p(\tilde{\sigma}_{i}|\sigma\setminus\tilde{\sigma}_{i};\alpha) \propto \begin{cases} \left(\frac{N_{k}}{\alpha+N-1}\right)^{\beta/m} e^{(c_{j,k}^{-}(i)+c_{j,k}^{+}(i))f(\beta,\Gamma)} \\ \mathbf{k}$$
番目のテーブルに座る。  
 $\left(\frac{\alpha}{\alpha+N-1}\right)^{\beta/m}$ 誰も座っていないテーブルに座る。

### 量子モンテカルロ法を適用

千葉工業大学セミナー 2015/07/25



#### 対数尤度(高いほうが良い解)の量子パラメータ初期値依存性



#### 計算結果 量子アニーリングの優位性



# 2つのキーワード

### 量子アニーリング 量子性を用いた 新計算技術

クラスタ分析

分かることは 分けること



機械学習における重要な技術であるクラスタ分析に対する、量子アニーリング の性能評価を行った。

量子モンテカルロ法を用いた擬似シミュレーションの結果、シミュレーテッド アニーリングに比べ、**量子アニーリングの方が、性能面で優位**であることを示 唆する結果を得た。

#### これまでの我々の研究で行ったこと

量子モンテカルロ法を用いた研究 K. Kurihara, S. Tanaka, and S. Miyashita, UAI2009

✔ MNISTデータ(手書き文字5000データ)を30個のクラスタに分類

✔ NIPSコーパス(論文1684報,1000語)を20個のクラスタに分類

✔ Reutersコーパス(記事1000報,2000語)を20個のクラスタに分類

変分ベイズ法を用いた研究 I. Sato, K. Kurihara, S. Tanaka, H. Nakagawa, and S. Miyashita, UAI2009

✔ Reutersコーパス(記事1000報, 12788語)を20個のクラスタに分類
 ✔ Medlineコーパス(論文1000報, 14252語)を20個のクラスタに分類

量子モンテカルロ法を用いた研究

I. Sato, S. Tanaka, K. Kurihara, S. Miyashita, and H. Nakagawa, *Neurocomputing*,**121**, 523 (2013)

✔ Citeseer(論文2110報)をクラスタ分析
 ✔ Netscience(研究者1589人)をクラスタ分析
 ✔ Wikivote(7115人)をクラスタ分析

千葉工業大学セミナー 2015/07/25